

2026 年 7 月 29 日

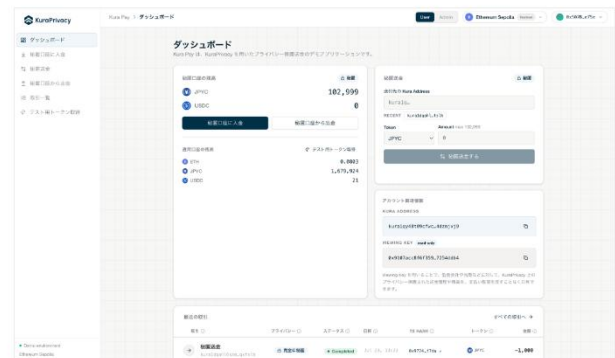
株式会社 Datachain

Datachain、秘匿送金デモ「Kura Pay」と「KuraPrivacy Service API」テスト版を提供開始

株式会社 Datachain（本社：東京都、以下「Datachain」）は、エンタープライズ向けオンチェーンプライバシー保護基盤「KuraPrivacy（クラプライバシー）」において、決済事業者・ウォレット事業者が自社サービスにプライバシー保護機能を組み込むための Service API のテスト版提供を開始しました。あわせて、KuraPrivacy の主要機能をウェブブラウザ上で体験できる秘匿送金デモアプリケーション「Kura Pay（クラペイ）」の提供も、パートナー企業向けに開始しました。



秘匿送金デモ「Kura Pay」と
「KuraPrivacy Service API」テスト版を
提供開始



なぜ、決済・ウォレットにプライバシーが必要か

通常のブロックチェーンでは、送金相手・金額・資産残高がすべて第三者に公開されます。取引の秘匿性が確保できないことは、法人顧客や機関投資家が利用に踏み切れない要因であり、決済・ウォレット事業者にとっては、こうした法人需要を取り込むうえでの壁となってきました。

一方で、「すべてを匿名化する」だけのアプローチでは、監査対応や発行体の監督責任を果たせず、実導入のハードルは高いままです。そこで KuraPrivacy は、取引情報を第三者からは秘匿しつつ必要な相手にだけ見せられる選択的開示や、取引可能なユーザーの制限、事前に定めたポリシーに沿った強制移転などのコンプライアンス機能を組み合わせることで、プライバシー保護と規制対応の両立を目指しています。

Service API で実現できること

KuraPrivacy Service API（現在はテストネット向け）を利用することで、自社の決済・ウォレットサービスに、次のプライバシー保護機能を組み込むことができます。

- **任意のウォレットから受取先を秘匿して送金：**一般的なウォレットからの支払いを、受取先を秘匿したまま実行します。オンチェーンでは送金元アドレスと金額が公開されたまま、受取先（どの秘匿口座が受け取ったか）のみを秘匿します。店舗決済など、支払元は特定されてよいが受取側の紐付けを避けたいケースを想定しています。
- **送信者・受信者・金額を秘匿した送金：**送信者と受信者の双方が秘匿口座を持つことで、送信者・受信者・金額のいずれも第三者から秘匿できます。「誰が・誰に・いくら送ったか」を隠すだけでなく、複数の取引を関連づけた資金の流れの追跡も防ぐことができます。
- **監査・経理向けの選択的開示：**閲覧用の鍵を渡すことで、指定した相手（監査人・経理部門等）に対し、送金権限を渡すことなく、その口座範囲の取引履歴・残高の閲覧のみを許可できます。閲覧鍵は読み取り専用で、資産の移動には別途、署名鍵による承認が必要です。「誰にも見えない」ではなく「見せる相手を選べる」設計です。
- **既存のウォレット・認証方式との互換性：**EOA、WebAuthn / パスキー、コントラクトウォレット（マルチシグ含む）など、すでに利用されているさまざまな認証・署名方式に対応。これらの既存鍵をそのまま ZK 証明の認可に利用できるため、認証基盤を大きく作り替えることなくプライバシー保護機能を組み込めます。

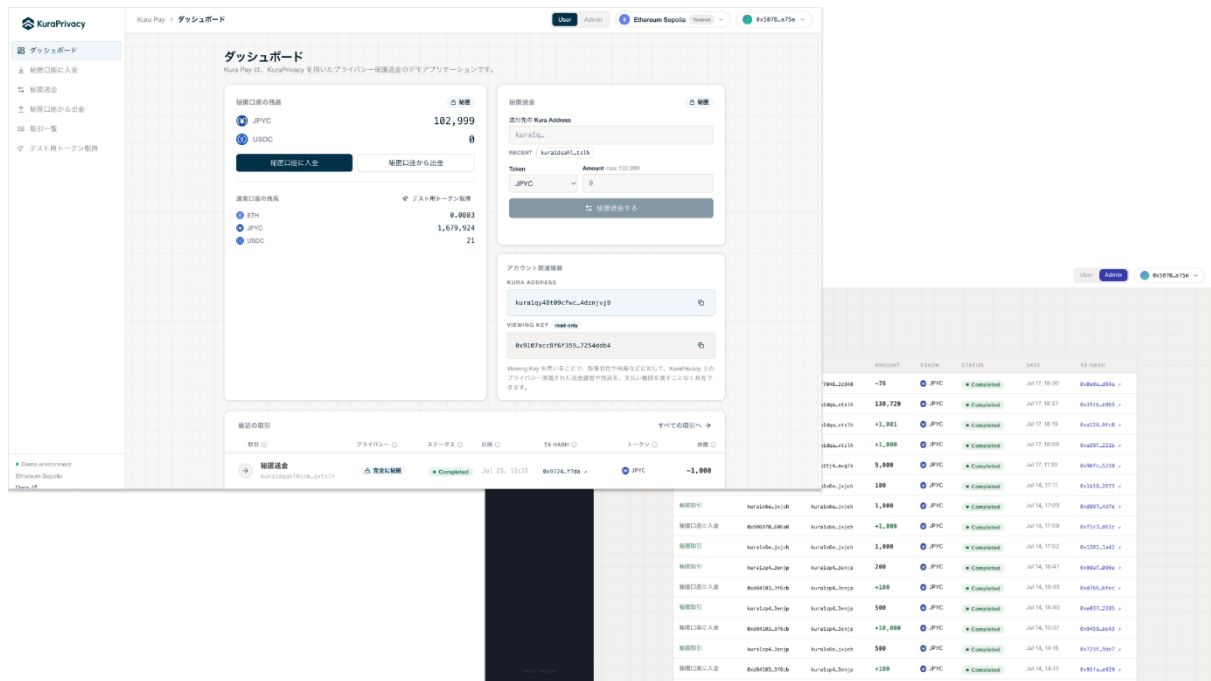
上記は Service API で提供する機能の一例です。このほか、許可リストや拒否リストによる移転制御、取引履歴の取得、強制移転などにも対応しています。詳しくは、以下のドキュメントをご覧ください。

<https://docs.kura.datachain.jp/service-api>

なお、Service API をより簡単にご利用いただけるよう、開発者向け SDK の提供を今後予定しています。

デモアプリケーション「Kura Pay」で機能を体験

Kura Pay は、KuraPrivacy の主要機能をブラウザ上で体験できるデモアプリケーションです。「何が秘匿され、何が公開されるのか」を実際の操作を通じてご確認ください。



Kura Pay が備える主な機能は次のとおりです：

- **秘匿口座への入金（Deposit）**：公開チェーン上のステーブルコイン等を秘匿口座へ入金。入金先は第三者から秘匿されます。
- **秘匿取引（Transfer）**：送信者・受信者・金額をすべて秘匿したまま送金。オンチェーンには取引の発生事実のみが記録されます。
- **秘匿口座からの出金（Withdraw）**：出金元を秘匿したまま、任意の公開アドレスへ引き出すことができます。
- **閲覧用の鍵による閲覧**：監査人や経理部門など、指定した相手にのみ取引履歴・残高の閲覧を許可することができます。

導入・協業のご相談

ステーブルコインを活用した決済・ウォレットサービスにご関心のある事業者様には、Kura Pay とテストネット向け Service API をあわせてご提供します。以下のような点について、お気軽にご相談ください。

- 自社サービスへの組み込み方法、実現イメージ
- Service API の仕様・利用方法（今後提供予定の SDK を含む）
- 共同 PoC の実施
- 商用導入に向けた流れとスケジュール

お問い合わせ先

- メールアドレス：contact@datachain.jp
- お問い合わせフォーム：<https://kura.datachain.jp/contact>

KuraPrivacy とは

KuraPrivacy は、プライバシー保護と規制対応を両立するエンタープライズ向けのオンチェーンプライバシー保護基盤です。ブロックチェーン上で公開される取引情報を第三者から秘匿しつつ、「必要な人には見せる」選択的開示、許可リスト・拒否リストによる移転制御、事前に定めたポリシーに沿った強制移転などのコンプライアンス機能を提供します。

- ウェブサイト: <https://kura.datachain.jp/>
- ドキュメント: <https://docs.kura.datachain.jp/>

■株式会社 Datachain について

「世界を透過的にひとつのネットワークとして扱えるようにする」を掲げ、2018 年の創業以来のブロックチェーン技術 R&D を土台に、ステーブルコイン、トークン化預金、法人向け Web3 ウォレット、クロスチェーン基盤、プライバシー保護基盤などの事業を通じて、次世代の金融・決済インフラの社会実装を推進しています。

代 表 者 : 代表取締役 CEO 久田 哲史
所 在 地 : 東京都港区六本木 3-2-1 六本木グランドタワー35 階
設 立 日 : 2018 年 3 月
事 業 内 容 : ブロックチェーン技術に関する企画・開発
U R L : <https://www.datachain.jp/ja>

■株式会社 Speee について

Speee は、「解き尽くす。未来を引きよせる。」というコーポレートミッションのもと、データドリブンな事業開発の連鎖でデジタルトランスフォーメーション (DX) を推進する企業です。金融 DX 事業、レガシー産業 DX 事業、DX コンサルティング事業など幅広い領域に展開しています。

代 表 者 : 代表取締役 大塚 英樹
所 在 地 : 東京都港区六本木三丁目 2 番 1 号
設 立 日 : 2007 年 11 月
事 業 内 容 : 金融 DX 事業、レガシー産業 DX 事業、DX コンサルティング事業
U R L : <https://speee.jp/>
証 券 コード : 4499 (東証スタンダード市場)

* 株式会社 Datachain は、株式会社 Speee (本社: 東京都港区、代表取締役: 大塚 英樹、東証スタンダード: 4499) の子会社です。

* 本資料に記載されている会社名、商品名、サービス名は、各社の商標又は登録商標です。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 Speee IR 担当: ir@speee.jp